

もくじ

- ・ セロ^ひ弾きのゴーシュ

セロ^ひ弾きのゴーシュ

げんさく みやざわ けんじ
原作： 宮沢 賢治

イラスト： kitamaki

へんしゅう
編集： YellowBirdProject

3

ゴーシュは、^{まち}町の^{おんがくだん}音楽団でセロ（チェロ）という
楽器を担当していました。

しかし、ゴーシュのセロの腕^{うで}はいまいちで、みんな
で練習^{れんしゅう}をしている時^{とき}は、いつも団長^{だんちょう}にしかられて
いました。

ゴーシュはそれが、くやしくてくやしくて、
練習^{れんしゅう}が^お終わって家^{いえ}に帰^{かえ}ってからも、毎日^{まいにち}夜遅^{よるおそ}く
まで、一人^{ひとり}でセロを弾^ひいていました。

その日^ひも、ゴーシュは夜中^{よなか}まで家^{いえ}でセロの練習^{れんしゅう}を
していました。

「ふう、もうこんな時間^{じかん}か。そろそろ寝^ねないとな」

と、その時^{とき}。だれかが外^{そと}から、家^{いえ}のドアをトントン
とたたきました。



5

そこにいたのは、^{おお}大きなネコでした。

「^{こんばん}今晚は、ゴージュさん。あなたのセロを^き聴きに
きました。さっそく^ひ弾いてごらんなさい。ああ、
これはおみやげです」

ネコはカゴに^{はい}入った、まだ^{あお}青いトマトを^さ差し出し
ました。

(なんて^{なまいき}生意気なネコだ！それにそのトマトは、
うちの^{はたけ}畑のやつじゃないか。よ～し、^み見てろ
よ・・・)

「いいだろう、セロを^ひ弾いてあげよう。そこに^{すわ}座り
たまえ、ネコくん」

ゴージュはセロを^{かま}構えました。

